

はちおうじくうしゅう 八王子空襲



▲^{くうしゅう}空襲を受けた^{はちおうじ}八王子の^{まちな}街並み(昭和^{しやうわ}20年^{ねん}10月^{がつ} 齊藤^{しやうさい}五郎氏^し撮影) ^{ししていぶんかざい}市指定文化財



▲^{げんざい}現在の^{はちおうじしがい}八王子市街

^{はちおうじ}八王子の^{しがいち}市街地は今、^{いま}たくさんのビルがたてられ、^{おお}多くの^{ひとびと}人々でにぎわっています。こんな
^{はちおうじ}八王子にも、^{しやうわ}昭和20年、^{ねん}空襲がありました。^{くうしゅう}空襲って何だかわかりますか？^{くうしゅう}空襲は、^{から}空から
^{ばくだん}爆弾や^{しやういだん}焼夷弾などを^お落とし、^{ちじやう}地上を^{こうげき}攻撃することです。^{はちおうじくうしゅう}八王子空襲で^{しがい}市街は^や焼け^の野原となり、
たくさんの^{ひと}人が^な亡くなったり^{ちほうとし}ケガをしました。^{くうしゅう}地方都市の空襲の中でも、^{はちおうじくうしゅう}八王子空襲による
^{ひがい}被害は特に^{とく}大きかったといわれます。

日本にも戦争があった

昭和6年(1931年)に満州事変が起きました。中国東北部の満州に日本が軍隊を送り、占領したのです。それから日中戦争、太平洋戦争へと続きます。太平洋戦争は、昭和16年(1941年)12月8日に、日本がハワイの真珠湾を攻撃したことで始まりました。最初、日本は東南アジアの各地からニューギニアまでの、広大な地域をおさえますが、アメリカなど連合軍の本格的な反攻を受けて、日本軍は負けることが多くなり、戦局は不利になっていきます。

予告される八王子空襲

太平洋戦争末期の昭和20年(1945年)に入り、日本の東京、大阪、名古屋、神戸、横浜などの大都市が空襲を受けると、アメリカ軍は今度は中小都市を爆撃する作戦を進めました。この中で八王子も攻撃目標とされていたことは、アメリカ軍が空からまいた伝単とよばれるリーフレットによって、予告されていました。伝単は、空襲直前の7月31日、8月1日にもまかれ、いよいよ空襲があるかもしれないということが、人々の間に広まりました。8月1日、この日は空襲に備えて昼間から八王子市街から離れた親戚の家に避難したり、家財などを防空壕に運びこんだりする人もいました。甲州街道には、東京から応援の消防車も配備してありました。

空襲が始まる

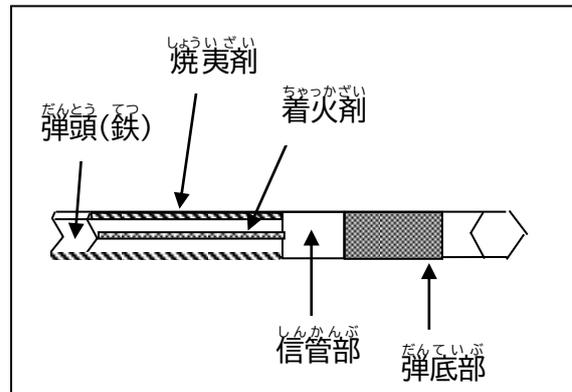
空襲警報は昭和20年(1945年)8月1日の午後8時55分に出されました。しかし、午後11時頃川崎方面に爆弾攻撃を行っているという情報もあり、多くの方は今夜は八王子は空襲されないで一安心し、避難先から戻ったりして、眠りにつきました。

ところが安心したのも束の間、169機もの米軍爆撃機B29が突然八王子の町を襲ったのです。第一弾は万町の中山製麦所付近に焼夷弾が落とされ、少し遅れて下長房(現長房団地内)にあった東京陸軍幼年学校に落とされました。八王子の中心部を取り巻くように次々に爆撃されていったのです。その後、まちの中心部にも焼夷弾が集中投下され、またたくまに全市に火が燃え広がりました。雨あられのように焼夷弾が降ってきて、とても消火どころではありません。米軍資料ではM47焼夷弾の投下を始めたのは、2日の午前零時45分でした。2日の夜明け前にかけて、空襲は約2時間近く続きました。たくさんの焼夷弾でまちが火の海となり、たくさんの人が焼け死に、たくさんの家や建物が焼かれました。

落とされた焼夷弾の量は1,600トンといわれています。メラメラと燃え上がる炎、ガラガラと燃え落ちる建物、逃げまどう人々、親子で呼び合う声、助けを求める声…。当時八王子の近くに住んでいた人は「夜空が真っ赤にそまった」と話します。

空襲に使われた焼夷弾

八王子に投下された焼夷弾は、ほとんどがM17集束焼夷弾と呼ばれたもので、M50小型エレクトロン焼夷弾110本を集束したものでした。



▲M50小型エレクトロン焼夷弾

重さ約1.6キロ、長さ約54センチメートル、鋼鉄などでできています。8月2日には約67万発が投下されました。多くの建物が焼けただけでなく、この焼夷弾の直撃で亡くなった方も大勢いました。

まち一帯は焼け野原

B29がさり夜があけると、八王子の中心部は焼け野原でした。市役所、学校、商店、お寺、神社、民家など、一夜にして灰になってしまったのです。自分の家がどこにあったのかすら、わからなくなったといえます。

八王子空襲は、八王子市街地の80%以上が焼けてしまう、とても大きな空襲でした。この空襲で亡くなった人は約450名、ケガをした人はおよそ2,000人、焼失家屋は14,000戸以上となりました。焼け跡にたつ人は、ただぼうぜんとしていたそうです。犠牲者の中では、子ども、女性の割合が多かったそうです。

長かった戦争が終わろうとしていたわずか2週間前のできごとでした。

しら調べてみましょう

ひとつのテーマについて調べる時、何冊かの本を調べることは、とても大切なことです。次にあげる参考文献は、図書館にある本の中で、小・中学生のみなさんにもわかりやすいものです。自分で調べ、まとめてみましょう。市内のどの図書館に所蔵しているかは館内OPACで検索、または職員へおたずねください。

※☆印のついているものは、特に小学生におすすめのものです。

『八王子の歴史と文化』 八王子市郷土資料館／編 1987年
先史時代から近代までの歴史。図版や写真が多い。

☆ 『こども歴史シート』 八王子市郷土資料館／編 1994年
こどもから質問の多い事柄について、やさしくまとめたシート。

『戦争と人びとのくらし』 八王子市郷土資料館／編 1995年
昭和6年から昭和20年まで年表と写真で紹介。

『焼け跡からの出発 市民の記録した戦後の八王子- 瀧上明の写真から①-』
八王子市郷土資料館／編 2006年
敗戦直後の八王子の様子と復興の過程を写真で紹介。

☆ 『郷土みてある記』 八王子市生活文化部広報課／編 1995年
小学校の先生が、八王子の歴史や関係の深い人物や動植物、事柄を小学生にも
わかるようにやさしく解説したもの。

『八王子の空襲と戦災の記録 市民の記録編・資料編・総説編』
八王子市郷土資料館／編 1985年
八王子空襲の体験記から、戦災の状況まで詳細な記録があり、もっとも詳しい
資料。

☆ 『八王子空襲』 八王子市郷土資料館／編 2005年
八王子空襲について、コンパクトにまとめられたブックレット。

☆ 『フィールドワーク浅川地下壕』 浅川地下壕の保存をすすめる会／編 2005年
浅川地下壕と八王子の戦争遺跡をわかりやすくまとめたもの。

実際に戦争や空襲を体験された方達の体験記も、
図書館にはたくさんあります。読んでみましょう。

編集・発行 八王子市中央図書館

平成18年(2006年)10月
令和3年(2021年)12月